

「第6回 土木設計関係技術発表会」 発表概要書

	事例名（業務名）	平成30年度 治山調査事業 神主海岸地区測量設計業務
	業務発注者名	島根県浜田県土整備事務所
発表者	所属協会名	島根県測量設計業協会
	所属会社	(株) テクノシステム
	発表者名	日野 幹雄

発表事例の概要

＜図表も含め1000字(40×25行)程度以内＞

①業務の内容と技術的特徴

本業務は、台風による波浪によって被災した治山施設（海岸防災林の防風対策用土塁工）の測量調査を行うとともに、被災原因の究明および現地に最も適した復旧工法の立案とその設計を行ったものである。

技術的特徴としては、災害復旧の場合、施設は原形復旧が基本であるが、当海岸ではこれまで幾度も施設が被災した経緯を勘案し、根本的な復旧対策を行うことを目的としていることである。

②表彰に至る高評価の要因

被災した治山施設の復旧について、技術的見地から事業の目的・予算の規模等に合致した計画・規模を樹立するとともに、根本的な復旧計画と整備手順を示したことが高評価を得た理由と考える。

海底地形変化の著しい海岸（漂砂海岸）において施設を計画する際には、将来地形を念頭において設計する必要がある。このような場所では海底地形変化シミュレーションを行うことが一般的であるが、過去から現在までの「空撮写真解析」、「深淺測量結果解析」、「波浪観測結果解析」を詳しく行うことでシミュレーションを省略し、業務コストの縮減に繋がった点も評価を得たと考える。

漂砂海岸では海岸浸食を防ぐため、人工リーフや離岸堤等の面的防護策に加え、コンクリートブロックを用いた緩傾斜護岸が整備されることが多い。当海岸によく似た海岸で砂の捕捉に非常に効果があることを弊社が実際に経験した被覆石式築堤護岸を、神主海岸で提案したことも評価を得た点であると考えます。

③業務遂行上に苦勞した点と工夫した点

過去から現在に至る海岸地形変化や波浪状況を把握するため、膨大なデータを整理・解析し、それを分かり易い資料にするには膨大な時間を要し、非常に苦勞したと言える。

最終的な治山施設の復旧断面を整備するには人工リーフの整備は不可欠であるが、人工リーフの整備を待つと予算や期間の関係で治山施設はなかなか整備できない。このため、陸上からできる対策から段階的に整備を進めるためのメニューを設定することに工夫した。

* 概要書記載上の留意事項

- ①業務の内容、技術的特徴等を簡潔に記載
- ②表彰に至る高評価の要因等を簡潔に記載
- ③業務遂行上、苦勞した点や工夫した点等を簡潔に記載

* 発表資料作成上の留意事項

- ①パワーポイントにて25枚程度以内に簡潔にまとめる
- ②上記の概要書記載上の留意事項①～③に留意して作成